

「タイエイズ支援活動」

松原ロータリークラブ
世界社会奉仕委員会
委員長 泉本 雅彦

MMRC基金(1998年西山公三会長年度にタイ王国で設立承認 Dr JACKRIS)を当松原RCの正式国際奉仕プロジェクトとして確立する事、そして、今年度のタイ王国エイズ支援活動を推進するために、世界社会奉仕委員長・泉本雅彦 世界社会奉仕副委員長・奥田政典、世界社会奉仕委員・鶴山昭雄 以上3名が8月19日から22日まで4日間、タイ王国を訪問いたしました。

BANGKOK空港でDr PRASIT PITULUKUAとMr SURACHE YASAWASDIの盛大な出迎えを受けました。さっそく、当夜に江戸屋という日本料理店において関係者総勢11名で夕食歓迎会を持っていただきました。両次官にRCの仕組みについてお話をさせていただき、松原RCの国際奉仕活動の正式基金として確立するために、松原RCとしての新しい名称に変更したい、そして新しく定款細則を作りたい旨をお願いいたしました。タイ王国の新名称の基金設立証明の発行(CHAIRMAN OF HEALTH COMMITTEE Dr PITULUKUAのサインを明記)を快く了承していただきました。後日送付いただく予定になっております。

Dr PITULUKUA 議員の地元であるBANGKOKからCHANMAIの間ぐらいに位置するNAKHONS AWAN県に寺院の中にエイズ患者を収容している施設のお話をいただきました。さっそく訪問することいたしました。翌日、午前9時30分にBANGKOKのホテルを出発し、午後1時にNANHONS AWANに着き、歓迎昼食会を持っていただき午後3時に施設へ向かいました。約1時間30分かかって現地に到着しました。

「KIMRAI DOUTEI SOON」という施設名(住所 〒100 MOO5 NONLUAN TAKAKON NAKHONS AWAN)で所長はKIMRAI TONDAという名前の女性でした。

病棟は男女共同病棟、男性病棟、女性病棟の3つに分かれておりました。施設の説明を受けながら、病棟を訪問いたしました。患者は結核とエイズを併発した人、がんとエイズを併発した人、その他色々な病気を併発した人達ら10数名の患者とお会いして、Dr PITULUKUAとともに一人一人にお話をお聞きしました。その患者さんらはかなり年齢層が若い人々が多くてびっくりした次第です。刺青をした人が数人おり、針を使用するために感染したと聞きました。また、ヘロインによりエイズ感染者もおられました。最近、日本でも若者の間で簡単に、刺青をしているのを眼にします。覚醒剤等薬を含めて積極的にエイズに対する感染防御に取り組んでゆく必要性を改めて実感いたしました。

松原RC3名で1万バツを施設に寄付してまいりました。エイズ孤児2名が収容され遊んでおり、我々3名それぞれが心ばかりの寄付金を各自手渡しいたしました。又、施設の患者が紙で作った敷物を100バツで販売していたものを購入してきました。ロータリークラブの例会で回覧いたしました。

その奉仕活動にタイ王国のテレビのディレクターが同行し、この奉仕活動をタイ王国テレビで8月22日に報道されました。後日にその番組CDを入手する予定となっております。

本年年末までに、多数ロータリアンに参加いただき、再度現地を訪問してセレモニーを含め国際奉仕活動をする計画を持っております。

又、台湾友好委員会と検討して、姉妹提携の嘉義RCとこの奉仕活動を共同のプロジェクトとして発展させてゆく事を期待しております。